

症例基盤・問題解決型学修(発展)

ナンバリング

M3-S1-E05

責任者・コーディネーター	総合診療医学講座 下沖 収 教授				
担当講座・学科(分野)	総合診療医学講座、医学教育学分野、地域医療学分野、腫瘍生物学研究部門				
担当教員	下沖 収 教授、伊藤 智範 教授、前沢 千早 教授、大間々 真一 准教授、高橋 智弘 講師、米田 真也 講師、相澤 純 特任講師、山田 哲也 助教				
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義	8コマ	16.0時間
期間	前期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	0コマ	0.0時間

・学習方針(講義概要等)

基本症例集などの模擬症例を対象に、症候や病態について基礎医学ならびに臨床医学の知識を基に論理的に考え、診断にいたるプロセスを学ぶ。疾患の病態生理のみならず、症例情報から得られる心理的社会的背景を理解する。各治療の効果発現機序、有害事象、QOLへの影響と症例個々の生物心理社会的問題とを総合的に判断し、治療法を考察する。疾病予防や社会復帰、在宅復帰のために必要な条件や社会資源についても知り、それをもとに患者中心の医療についても理解を深める。小人数グループで調べて、プレゼンテーション資料を作成、発表と討議を行うコースである。

・教育成果(アウトカム)

症例を生物心理社会(BPS)モデルとして捉え、症候から診断、治療、さらには社会(在宅)復帰までをトレースして考察することで、疾患の理解に留まらず社会の中の人間(全人的視点)を診ることができるようになる。また、少人数グループ作業によるPBLを行うことで、適切な役割分担と責任感、コミュニケーション能力、協調的態度を向上させ、チームの一員として役割を担うことができるようになる。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標(SBOs)

No.	項目
1	与えられた症例の症候について、解剖・生理学等に基づく病態生理を説明できる。
2	病歴、身体所見から鑑別診断を挙げることができる。
3	診断プロセスの中で必要な検査を挙げることができる。
4	与えられた臨床データ(検体検査、生理検査、画像検査、特殊検査)を解釈し診断に到ることができる。
5	治療法について、病態生理に対しての作用機序、薬理作用を基に説明できる。
6	病態生理、薬理作用を基に、治療法を選択し、考えられる有害事象やQOLへの影響を説明できる。
7	疾病予防や再発予防、社会復帰や在宅復帰のために必要な条件や社会資源を述べることができる。
8	心理社会的背景や倫理的視点も踏まえた方針について検討して述べるができる。
9	チーム作業で自分の役割を果たし、自らの意見と同様に相手の意見を尊重する態度、論理的思考力と伝達能力、伝えるためのプレゼンテーション技法を身につける。
10	振返りの習慣を身につけ、自己学修を自律的に行なうことができる。

・講義場所

講義: 東1-C講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	5/30(金)	3	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	コースオリエンテーション （講義スタイル）	1,2,3,4,5,6,7,8,9
講義	5/30(金)	4	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	グループ学習演習	1,2,3,4,5,6,7,8,9
講義	6/6(金)	3	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	グループ学習演習	1,2,3,4,5,6,7,8,9
講義	6/6(金)	4	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	グループ学習演習	1,2,3,4,5,6,7,8,9
講義	6/12(木)	3	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	個人学習	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10
講義	6/12(木)	4	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	個人学習	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10
講義	6/26(木)	3	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	グループ学習演習	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10

講義	6/26(木)	4	総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 総合診療医学講座 地域医療学分野 医学教育学分野 腫瘍生物学研究部門	下沖 収 教授 大間々 真一 准教授 高橋 智弘 講師 米田 真也 講師 山田 哲也 助教 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 前沢 千早 教授	グループ学習演習	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10
----	---------	---	---	--	----------	----------------------

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	内科診断学 第4版	福井 次矢、奈良 信雄 編集	医学書院	2024
参考書	岩手医科大学基本症例集（オープン問題）			2009
参考書	地域医療テキスト	自治医科大学	医学書院	
参考書	へき地・離島医療マニュアル(web) (https://www.mhlw.go.jp/topics/2006/05/tp0524-1.html)	地域医療振興協会	厚生労働省	2021
参考書	日本プライマリ・ケア連合学会 基本研修ハンドブック 改訂3版	日本プライマリ・ケア連合学会	南山堂	

・成績評価方法

<p>【総括評価】 進級試験 MCQ（50点満点）、成果物評価（30点満点）、レポート評価（10点満点）、ピア評価（10点満点）を加えて最終成績とします。最終成績が60点以上で合格とします。 最終成績が60点に満たない場合は、再試験対象となります。再試験はMCQ単独、またはMCQに口頭試問を加えた形式で行います。</p> <p>【形成的評価】 講義内で発表された成果物に対して形成的評価を行いフィードバックする。 確認テストをwebclass上で実施し講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。</p>
--

・特記事項・その他

<p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業における事前学修と成果物の作成には最低120分を要する。また授業後の復習には60分以上が必要である。本内容は全授業に対して該当するものとする。講義・実習内で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、解答例を含む解説書を配布する。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果、実際の医療の状況を教示する。確認テストは、事前学習と成果物作成への取組み、講義内での理解度を評価するものとして活用する。また、復習にも活用することで一層の理解度向上を図る。講義資料はWebclassで配信する。</p> <p>本科目では、事前事後学修以外に420分の自己学修を要す。</p> <p>当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。</p>
--

・教育資源

講義室、PC、インターネット環境、プロジェクター、マイク、教科書、参考書等

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済みの機器・器具はありません			